

・一人暮らし高齢者の課題と対策について

・碓氷関所跡の保存整備について



清風クラブ
まつもと つぎ お
松本 次男



詳しい内容は
こちら

65 歳以上の高齢者の一人暮らしの割合は、少子高齢化が進む中、年々増加傾向にあります。内閣府が公表している令和 7 年版高齢社会白書によれば、65 歳以上の人口に占める一人暮らしの割合は、2025 年時点で男性が 290 万人（18.3%）、女性が 525 万人（25.4%）となっています。そこで、本市の一人暮らし高齢者世帯数、一人暮らしで生じる問題と支援施策、さらに高齢者福祉の推進に向けた取り組みなどについて聞きました。

国の文化審議会は昨年 12 月、碓氷関所跡や堂嶺番所跡などを含めた中山道・碓氷峠越を国史跡に追加指定するよう文部科学相に答申。今年 3 月の官報告示を経て正式に指定さ

れました。碓氷関所は日本四大関所の一つで、箱根と並ぶ重要な関所と言われながら、なかなか整備が進みませんでした。そこで今回の国史跡指定を機に、保存整備に向けた課題や対応について考えを聞きました。



碓氷関所跡

・本市の新規就農者支援について

農業者を取り巻く環境は、ここ数年で劇的に変化しています。不測の事態や有事の際に、政府は農家に対し増産の要請や生産計画の変更を指示し、従わなければ罰金を科すという「食料供給困難事態対策法」が今年 4 月施行されました。国から所得補償もされてない農家は、食糧安全保障という名のもとに国に振り回される事態に陥ります。さらに追い打ちをかけるように令和の米騒動が起きました。令和 7 年産の米には、やっと農業者の所得増が見込まれますが、その分米の小売価格は昨年よりさらに高くなることが見込まれ、農家は消費者のコメ離れを非常に心配しています。この結果として、「令和の農民一揆」と銘打った農家のデモ活動

が全国に広がりました。

この 3 月までに本市が策定した地域計画によると、10 年後に担い手が不在の農地の割合は 80.6%に達します。10 年後には 2 割の農地しか残らなくなってしまいます。担い手不在の大きな原因は農業の収益性にありますが、この課題は政府の大胆な所得補償政策への転換がない限り解決しません。そこまでの間のつなぎ対策としてソフトランディングさせるためにはどうしたらよいかという観点で、新規就農者支援について質問しました。



無所属
はら だ だい
原田 大



詳しい内容は
こちら